

平成20年度沖縄県医師会親睦囲碁大会

～平成20年度沖縄県医師会親睦囲碁大会の報告～

世話人 公立久米島病院 村田 謙二



ほぼ恒例となった感のある県医師会親睦囲碁大会は、昨年11月3日場所は前回と同じく南風原町の寛味「んかっか」で開催されました。連休日であったためか都合の付かない先生方が多く、当初の申し込みでは11名と少数でした。そこで、世話人の特権を行使して私の囲碁仲間をゲストとして招待しました。結果総勢16名、今年初の試みとして6段以上の強者（チューバー）グループ6人とそれ以下のBグループに分けました。

ゲストの中で異彩を放っていたのは、女性陣3人の参加でした。「でいご会」という女性の囲碁グループがあり、毎年全国大会に参加し優勝経験もある由緒あるグループです。そのリーダー格の大城登喜さん（4段）は、もと県職員で福祉保健部に勤務していた時期もある方なのでご存じの方もおられるでしょう。その良き相手でおられる糸数敏江さん（3段）、さらにその主将格である石嶺知子さん（沖縄の囲碁界では有名で、知念かおりの碁の育ての親でもある石嶺真雄さんの令嬢です）は、県代表を争うほどの

実力（6段）の持ち主なので強者グループに入っていました。

大会の結果は強者グループの優勝者は砂川恵徹先生（サマリヤ人病院）、準優勝は砂川洋さん（サマリヤ人病院）、Bグループの優勝は筆者、準優勝は大山朝賢先生（沖縄メディカル病院）となりました。夕方から表彰式を兼ねて自己紹介をしながら懇親会、ここで川柳を一句。

「囲碁好きは二次会といえ囲碁狂い」

結局ほとんどの参加者が、そのまま囲碁に興じ最後にお開きになったのは夜の11時を過ぎておりました。開幕が午後1時でしたから10時間も打っては食べかつ飲んでいただけになります。囲碁を知らない人からするとなんとクレイジーなことかと思われるでしょう。医師の場合は、多忙で周りに手頃な相手がいないことがほとんどなので、こういう機会に徹底的に味わい尽くしたいのです。中には1年分楽しんだと思われた方もいるでしょう。

さて聞くところによると、那覇市医師会にも囲碁愛好家が少なからずおられるとか。来年は



強者（チューバー）グループ優勝の表彰状を受けとる砂川恵徹先生（左）



Bグループ優勝の表彰状を受けとる小生（村田）

こぞって参加して欲しいものです。南部地区医師会の恒例の親睦囲碁大会（毎年成人の日に開催）はいつも十数人が集まって盛会です。この会もゲスト参加大歓迎ですのでどうぞ。ちなみに十数年前まで私がいた広島県では、年1回県医師会主催で地区医師会対抗囲碁団体戦（5人一組、8チームで争う）が開かれるほど医師の趣味として囲碁は浸透していました。各チームの主将は、ほとんどが県代表クラスの実力で5段の私が三将を努めるのが精一杯なほどのハイレベルでした。

ところで、身近に相手がなくて、と嘆いている方に耳寄りな情報をひとつ。会場となった

「んかっか」（098-889-1294）ではほぼ毎週金曜日の夕方、小さな碁会が開かれています。美味しい食事とお酒を肴に、気心知れた仲間と碁に興じるのも楽しいものです。私の名を出していただければ、間違いなく仲間に加えて貰えるものと思います。

最後になりましたが、いつも陰で支えてくださっている沖縄県医師協同組合・沖医商事の方々、会場を提供下さった「んかっか」の皆様、今回碁盤・碁石を無料で貸し出してくださった曙園の仲村有伸さんに心からの謝辞を表して筆を起きたいと思います。参加者の皆様ありがとうございました。また来年お会いいたしましょう。

～平成20年度沖縄県医師会親睦囲碁大会－参戦記－～



てるや整形外科 照屋 勉

てるや整形外科の照屋勉と申します。恥ずかしながら、初段レベルの実力で、親睦囲碁大会には毎回参加させてもらっております。今回は、糸数敏江さん（3段）、大城登喜さん（4段）、石嶺知子さん（6段）という高段位の女流棋士の特別参加もあり、例年にない盛り上がりでした。小生的には、岸本幸治先生（5段）・喜久村徳清先生（1級）という那覇市医師会代表の両先生になんとか勝たせて頂いたものの、糸数敏江さんには、前半の見落とししチョンボが響き、悔しい「8目負け」…。南部地区医師会の宿敵・仲本政雄先生には、序盤小生の優勢を軽くさばかれ、ジワジワよせられ無念の「7目負け」…。2勝2敗という不本意な成績でした。

以前、この会報誌（沖縄医報.Vol.42.No.1.2006）でもご紹介いたしました「碁」と「ゴルフ」の意外な共通点を復習しておきましょう。

まず、「碁」で言う“布石”は、「ゴルフ」の“ドライバーショット”…。ただ飛ばすだけではダメなことは重々承知しているのですが、ついつい力が入ってしまいます。定石どおりフェアウェイを狙ってみても、右へ左へ乱れ打ち…。飛ばして喜ぶ幼稚園児か小学生…。「碁」で言う“中盤の攻防”は、「ゴルフ」の“アイアンショット”・“アプローチショット”…。場数（月2～3回）が少なく、生兵法で戦ってしまう小生にとってこの“中盤”のポカで、せっかくの「碁」も、久しぶりの「ゴルフ」も、台無しにしてしまうのです。あわてず騒がず、じっと本手を打つ大切さを忘れるあさはかさでしょうか。そして、「碁」で言う“ヨセ”が、「ゴルフ」の最大の難関である“パット”…。上手（うわて）との対局では“ヨセ”の段階で軽く10目～20目はヨセられてしまいますし、「ゴルフ」でも3パットオンパレードの小生にとって、

//////////////////////////////// 趣味のグループ //////////////////////////////////

あっさり5打~10打の差が出てしまうのです。いくら“ハンディー（数目 or 数打）”を頂いても、終わって見たらいつもと同じ…。またしても、反省の日々が始まるのです…。

今回も、ご多分に漏れず、“布石”・“中盤”・“ヨセ”のコンビネーションがいまひとつ…。対局後の懇親会では、ほろ苦い泡盛を飲みながら、反省・反省・また反省…。

『上達の5K』（by 囲碁棋士 石倉昇九段）という名言があります。①感動～「なるほど！」と思った時強くなる！②好奇心～「新しい手」を知ったら使ってみる！③形～「いい形」を知ったら強くなる！④考え方～「正しい考え方」を知ると強くなる！⑤繰り返し～「繰り返し」使えば自分の物になる！『上達の5K』を肝に銘じつつ、さしあたりの目標である“3段”を

目指して、精進していきたいと思っているのですが、高いハードル・厚い壁に阻まれ、なかなか昇段できません。あ～、うちあた、うちあた…。

『洗心』（by 女流棋士：小西和子7段）…。ナンクルナンクル、心を洗い、心を静めて、心を磨いていきたいと思っている今日この頃であります。今後とも、ゆたしくゆたしくお願い申し上げます。

【P.S.】毎年1月の第2月曜日～「成人の日」には、南部地区医師会主催の親睦囲碁大会も、開催されております。県医師会主催の本大会同様、多数の囲碁ファンの先生方のご参加をお待ちしております。

